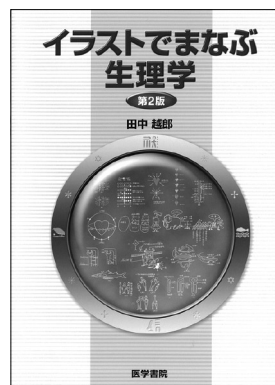


『イラストでまなぶ生理学 第2版』 看護実践能力をつけるために 活用できる生理学テキスト

著：田中越郎／定価：3,150 円（本体 3,000 円＋税 5%）
発行：医学書院／TEL：03-3817-5657



●新カリ時代の学生指導のために

今年度からスタートした新カリキュラムの最大のポイントは、看護実践力を身につけることにある。看護実践力とは、知識だけでなく、対象に合わせて個別的に、状況に応じて看護を提供する能力だと言える。このような能力を身につけるためには、人体を系統立てて理解し、健康・疾病・障害に関する観察力、判断力を強化する必要がある。解剖生理学は必修となる科目である。多くの看護学校でかなりの時間をとり詳しく講義されているが、しかし、学生たちからは「苦手」「分かりにくい」等の意見が多く聴かれる。一方で、国家試験合格に向けてどのようなテキストを望むかと学生に尋ねてみた際には、学生たちは「絵や図があり」、また「明るいカラーが使われている」と「一瞬見た目が分かりやすそう」「読んでみたいといった気持ちになる」と言っていた。

●“学生たちが望むテキスト”

本書は、初版発行以来 10 万部を突破するほど“学生たちが望むテキスト”なのである。重要な項目だけを重要な順にランク分けされ、また重要な語句にカラーを使い強調している。さらに、最も重要な事柄は大見出しとして書いてあり、次に重要な事柄を中見出しとし、理解し記憶するポイントが分かりやすい。このような内容であれば、「何から手をつけていけばよいのかわからない」と

いった学生にも効果的である。学習を進めていくなかで、チェック欄もあることで、記憶した内容も明らかになる。また、確認問題として国試問題が記載されていることも大いに役立つ。

従来は医師に講義を依頼することが多かった科目であったが、近年は看護教員が自分たちで担当するようになってきており、教員にとっても理解しやすい本書は大いに活用できると考える。フィジカルアセスメントでも解剖生理学の知識が重要であり、講義だけでなく臨地実習の場においても、学生が苦手とする生理学についての、例えば、「脱水」「不整脈」「血液ガス」等の項目も、短時間に指導する際に活用できる内容ばかりである。学生は、臨床現場の内容について大変興味・関心を持っているため、臨床的な事柄や最近のトピックスをコラムとして記載されているのもたいへん嬉しい。

●“看護に必要な”生理学を

看護者は医師とは違い、細分化された詳細の生理学の知識ではなく、“看護に必要な”生理学、つまり、対象を看護しなければならない生理学的な状態を、看護に必要な限りにおいて的確に、すばやく読み取れることが重要である。そのために本書を活用することで、人間の生理状態を把握し、全体と部分との連関が透視できるような体系化された生理学の知識が身につくと思われる。